

きのこによる食中毒の発生状況

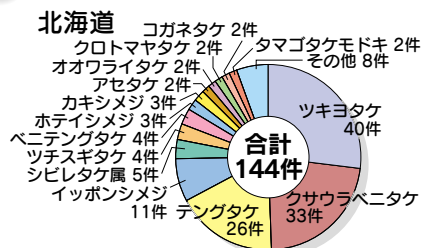
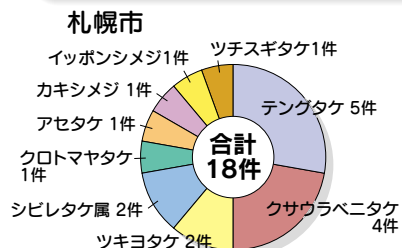
(昭和45年～平成21年までの過去40年間の累計)

発生件数

毎年、北海道（札幌市を含む）で数件の食中毒が発生しており、過去40年間で患者数が644名、うち死者数は4名（札幌市1名）である。

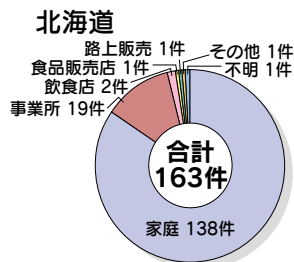
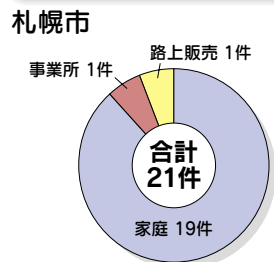
	発生件数	患者数	死者数	死者が発生した事例での原因きのこ
北海道	163	644	4	タマゴタケモドキ…2名 クロトマヤタケ…1名 (札幌市)
札幌市 (再掲)	21	80	1	種類不明…1名

原因となったきのこの種類



*種類（属を含む）が判明したもの（推定を含む）は、札幌市で21件中18件、北海道で163件中144件。

原因となった施設



札幌市での「きのこによる食中毒事例」



●クサウラベニタケによる食中毒

概要 平成元年10月、市内の路上販売店から購入したきのこを6グループ13名が喫食。間もなく頭痛、おう吐、下痢などの症状を訴え、治療を受けた。

要因 路上販売者は、食用のシメジの一種と信じて採取し、その旨を表示して販売していた。また、購入者も食用のシメジと誤って喫食した。

教訓：きのこを購入する時は、信頼できる販売店から

●カキシメジによる食中毒

概要 平成11年10月、市内で採取したきのこをタラ、白菜などと一緒にかき鍋にして家族4名が喫食。1～3時間後に4名ともおう吐、下痢などの症状が現れ、医師の治療を受けた。

要因 本人は知らないきのこだったが、通りがかりの人から「シメジで食べられる」と間違えて教えられ、これを信用して採取した。

教訓：知らないきのこは採らない・食べない

●イッポンシメジによる食中毒

概要 平成12年9月、職場近くの林で採取したきのこを家族2名と提供を受けた別の家族2名がそれぞれ調理して喫食。40分から2時間後に4名ともおう吐、腹痛、下痢の症状が現れ、医師の治療を受けた。

要因 採取した人が、食用のシメジの仲間と思い込んでいたことによる。

教訓：食用きのこの知識は確実に身につける

●テングタケによる食中毒

概要 平成15年8月、近所の森で採取したきのこを自宅で味噌汁にして家族2名が喫食。このうち1名が約2時間後にふわっとした感じと全身のしびれを感じ、医師の治療を受けた。残っていたものから、テングダケと判明。

要因 本人は「香りの良いきのこは食べられる」という迷信を信じ、初めてみたきのこであるにもかかわらず大丈夫だと判断していた。

教訓：誤った言い伝えは信じない

●ツキヨタケによる食中毒

概要 平成14年9月、市内の山林で採取したきのこの提供を受けた11名が喫食。このうち2家族6名が1～2時間後に、おう気、おう吐、腹痛などの症状を訴えた。

要因 採取者は、凶鑑で調べ、一部のきのこにツキヨタケ特有の黒いしみがあつたが、鮮度が落ちたものと思ってムキタケと判断し、その部分を除いて調理した。



教訓：勝手な判断は禁物・知らないきのこは人にあげない